

オンライン



Zoom 会議による

信州幼児教育支援センター主催

# プレ・フィールド座談会を開催しました。

信州幼児教育支援センターでは、先生方の今の思いや願いをつなぐ場を提供するため、Web 会議システム ZOOM を使い、保育についての情報交換を行いました。

参加者（敬称略・五十音順）

飯島 俊哲（認定こども園芙蓉園）

海野 暁光（認定こども園深志）

関 香保里（信学会長野幼稚園）

竹内 勝哉（認定こども園あそびの森あきわ）

辻 乃輔（NPO 法人きらり）

渡辺 徹（古牧東部保育園）

5/22（金）

14:00

～15:00



## テーマ） コロナ禍における保育について



### 当たり前を見直した

- ・行事－本当に子どもにとって必要なものは何か。
- ・会議－全員集合の必要なし。ラインの情報共有で十分。
- ・環境－園内の環境構成をじっくり全職員で考え直した。
- ・子どもの登園が少ないことで、保育をゆったりと見直す機会とした。



### 消毒など衛生面での対応

- ・マスクをしても、遊びに夢中になるとすぐ外れてしまうことも。
- ・環境自体を安全なものに。その様子を家庭にも発信し、安心して登園してもらう。
- ・遊び道具の精査も必要。子どもが接触するぬいぐるみなど。



### 職員が早く帰るようになった

- ・園内の文化が変わった。
- ・17時半には帰宅。

### 新しいアイデア

- ・子どもたちのために何ができるのか、教材研究を進め、それを持ち寄って発表し合うようにした。
- ・動画をとったり、遊びを考えてみたり、新しいアイデアが生まれている。

### 家族みんなで

- ・育児に関して母親が担うイメージがあったが、今回、祖父母や兄弟（分散登校）と乳幼児が過ごす時間が増えた。
- ・子どもを家族みんなで、社会全体で育てようという意識が出てきたと思う。



### 家庭への支援

- ・自粛家庭へはメール配信、フェイスブック等でフォローした。一方で、自宅で育児に負担がある家庭は預かる。
- ・保育の基本は同じ。選択肢をしっかりと伝えた。



### 院内保育施設として

- ・3歳未満児のみならず兄弟関係も受け入れる体制をつくった。実際には希望はなかったが、可能性を考えた。

